

ULVAC

# ULVAC REPORT 2013

第109期 事業報告書 2012.7.1~2013.6.30

証券コード：6728

## 事業構造改革の推進により、営業利益の黒字を回復

— 確実・安定的に利益を出せる体制を確立するため、中期経営計画を策定 —



代表取締役執行役員社長

小日向久治

### Q1 当期（2013年6月期）の営業状況及び成果についてお聞かせください。

#### FPD・半導体関連の設備投資が伸びず、厳しい状況に

当社を取り巻く事業環境は、2012年の春から夏にかけて、スマートフォンとタブレット端末の需要が急速に拡大したことから、FPD（フラットパネルディスプレイ）関連市場及び半導体関連市場での大幅な成長が期待されました。しかし、それらによる設備投資は一時的な伸びにとどまり年末には冷え込んだほか、PC需要の縮小が継続し、大型液晶TV用の設備投資も停滞が続くなど、全般的に厳しい状況となりました。

そうした中、主力のFPD及びPV（太陽電池）製造装置の売上が落ち込みましたが、下期以降は、中国を中心に有機EL関連の投資が動きはじめ、受注拡大につながりました。また、半導体及び電子部品製造装置も、PC需要の低迷を受け、受注・売上とも減少しましたが、2012年末からはメモリー関連の在庫調整が終わり回復に向かってきました。コンポーネントは小型ポンプを中心に堅調に推移し、一般産業用装置は凍結真空乾燥装置が健闘するなど、エレクトロニクス以外の幅広い分野で展開する品目は底堅さを見せました。材料はFPDや半導体の減産を受け、低調に推移しました。

結果として当期の受注高は、1,668億円と前期に比べ9.6%増加したものの、売上高は1,634億円と前期に比べ17.0%減少しました。

#### 損益分岐点の引き下げにより、営業利益を黒字化

一方、営業利益については、61億円を確保し、黒字回

復を果たしました。また、売上総利益率は上場来最高値の22.6%となり、営業利益率も3.7%に改善しました。また、フリーキャッシュ・フローについても179億円の黒字となりました。

こうした転換を実現したのは、「事業構造改革プラン」に基づき全社を挙げて、損益分岐点の引き下げに向けて取り組んだ努力の成果です。製造原価を下げる、追加原価の発生を抑える、さらに固定費の削減といったコスト削減に取り組んだ結果、当社単体で前期に比べ経費を40%以上削減するという大きな成果を出すことができました。

特に、「フロントローディング」と言われる手法の導入、すなわち、アルバックが持っている英知、過去のデータ、技術仕様、そういったものを全部集めて、仕事をする前にリスク対策を徹底する、ということをやりました。それによって、追加コストの発生を抑え、コストを予算の範囲内に収めることが可能となりました。

一方で、マテリアル事業における一部不採算製品の見直しを実施しました。これに伴う特別損失の計上により、最終的に38億円の当期純損失となりましたが、今後の利益拡大につながる採算性の改善を果たすことができました。

## Q2 事業構造改革の進捗状況及び新たに策定された中期経営計画についてご説明願います。

### 損益上のプラス要素を増やすさまざまな改革を実施

当期は「事業構造改革プラン」に基づき、損益上のプラス要素を増やすためのさまざまな改革を行ってきました。

「開発戦略」として、顧客ニーズと市場の動向を捉えたタイムリーな製品開発に向けてマーケティング体制を整える一方、「営業戦略」として、PM(プロダクトマネージャー)体制と、専門の販売会社(国内の販売会社)であるアルバック販売(株)による販売体制を確立しました。アルバック販売(株)を設立したことで、事業部の枠を越えたお客様ご

の専任の営業マンを配置することができるようになりました。また、営業本部内に新設した市場開拓室が中心となり、東南アジアや南米などの新たな成長市場への展開に着手しました。

「コスト競争力強化」という点では、先に述べましたコスト削減に加えて、「単純化(Simple)」、「共通化(Same)」、「標準化(Standard)」の「3S」による強化を進めており、今後これをさらに追求していきます。そして、グローバル生産体制の拡充については、日本・台湾・韓国・中国の4極体制を確立し、よりお客様に近いエリアで、低コストかつ技術面でもベストな製品を供給することが可能となりました。

また、「人事制度改革」、「業務改革」、「リスクマネジメント」、「グループ経営管理」などの施策についても、引き続き着実に遂行していきます。

### 利益体質の強化によって実現する「強いアルバック」

当社では、事業構造改革を着実に実施するとともに、その指針となる2014年6月期から2016年6月期までを計画期間とする中期経営計画を策定し、スタートしました。本計画は、「確実・安定的に収益確保できる体制の確立」をめざし、それによって「成長への余力を確保」することを基本方針に掲げています。

これまで述べてきました通り、目標としていた営業利益の黒字回復を果たすことができましたが、最終損益は3期連続の赤字という結果になりました。

この状況に対処し、株主の皆様をはじめ、金融機関、お客様、社会、従業員といったすべてのステークホルダー様が期待する「強いアルバック」を利益体質の強化によって実現していくことを示す、これが中期経営計画の策定理由です。

### 3つの軸に沿って計画を遂行し、利益体質を強化

中期経営計画では、確実・安定的に収益確保できる体制を確立し、成長への余力を確保していくために、3つの基本方針、①価値創造型ビジネスモデルの再構築、②不採算事業の見直し、③損益分岐点売上高の引き下げを進めていき

ます。価値創造型ビジネスモデルの再構築では、PMを中心に顧客ニーズと市場の動向を的確に捉えた開発計画を作っていく。そして、リスクやトラブルが少なく立ち上がりの早い製品作りをもたらす「フロントローディング」を中心に活動して価値を高めていくことを引き続き徹底していきたいと思えます。

そうした付加価値向上と並行して進めていくのが、不採算事業の見直しです。製品ごと、お客様ごとの利益がどうなっているかという「利益の見える化」をきちんとやることで収益性を維持・改善します。

これらを前提とした上で、顧客業界における設備投資の大きな波に耐え、常に収益を確保していくための取り組みが損益分岐点売上高の引き下げです。特に今後は資産のスリム化を進めて利益体質を強化していく考えです。

### 3年後に受注・売上2,050億円、営業利益率8%へ

中期経営計画では、計画最終年度の2016年6月期には、受注高・売上高ともに2,050億円、営業利益170億円(営業利益率8%)、経常利益140億円、当期純利益110億円の達成をめざします。

目標数値の前提となる受注イメージでは、特に半導体及び電子部品製造装置が大きく伸びていく見込みです。一方、FPD及びPV製造装置については、有機ELとIGZO(酸化膜半導体)による市場活性化を受けながらも、全体としては横ばいにとどまるものと見ています。一般産業用装置は、ハイブリッド車・EVなどのエコカーによる自動車市場の設備需要に加え、医薬品市場、磁石市場においても安定した受注の確保が期待できます。

3年後の利益目標である営業利益率8%は、当期実績から見ると、一層の飛躍が求められる設定ですが、当社単体では、すでに損益分岐点売上高を大幅に引き下げましたし、利益体質の改善に今年度以降も取り組むことで十分に達成可能な目標であると考えています。



## Q3 株主の皆様へのメッセージをお願いします。

### より強固な企業体質を構築し、事業を持続的に発展

当期は、営業利益の黒字回復を果たすことができましたが、一部不採算製品の見直しを実施した結果、当期純損失の計上を余儀なくされ、3期連続の無配となりました。株主の皆様には深くお詫び申し上げます。

しかし、利益体質の改善に全力で取り組んだことで、厳しい環境の中でも利益を出す力は大幅に向上しました。今後は、最終損益における黒字を確保し、株主の皆様のご期待に添えるよう努力してまいります。

また、中期経営計画を通して成長への余力を着実に確保しつつ、開発力を高め、将来の企業価値向上に向けた基盤づくりを進めていきます。

株主の皆様におかれましては、引き続きより一層のご支援を賜りますようお願い申し上げます。

## 特集：中期経営計画の策定について

### 1. 中期経営計画策定の背景

2013年6月期においては液晶・半導体を中心に顧客の投資が減少または延期されたことなどにより、売上高は前期に比べ減少いたしました。2012年に策定した「事業構造改革プラン」を遂行することにより、営業利益、経常利益とも黒字化は達成いたしました。マテリアル事業における一部不採算製品の見直しなどに伴う特別損失により、最終的に当期純損失を計上することとなりました。

こうした状況の中、より確実・安定的に利益を出せる体制を確立するため、事業構造改革をさらに推進するとともに、今般、その指針となる中期経営計画を策定したものです。

### 2. 計画期間

2014年6月期～2016年6月期

### 3. 中期経営計画における基本方針

**確実・安定的に利益確保できる体制の確立**

 **成長への余力を確保**

#### (1) 損益分岐点売上高の引き下げ

- 受注減少時にも確実・安定的に収益の確保ができる体制を構築

#### (2) 不採算事業の見直し

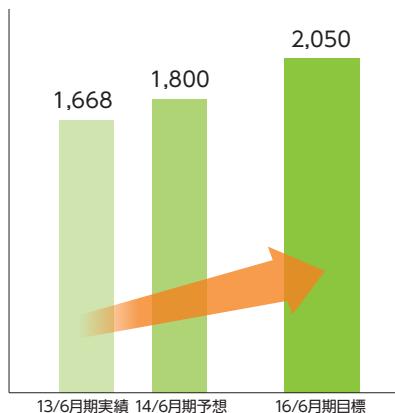
- 製品ごとの採算管理の徹底

### (3) 価値創造型ビジネスモデルの再構築

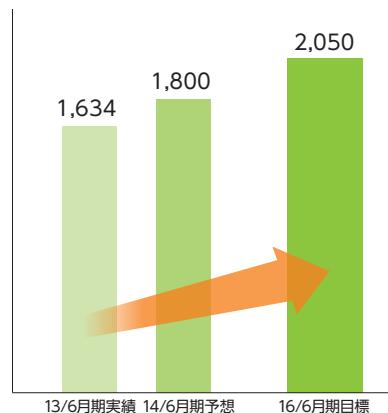
- 真空技術を核として『付加価値』を高める仕組みを再構築することで、顧客満足度を高め、収益体質・財務体質強化をめざす
  
- ◆ 製品の付加価値を高めるため、
  - 顕在、潜在ニーズに応え得る革新的、先進的な技術開発で顧客の様々な課題を解決
  - 納入時の早期安定稼働、不良化比率極小化サポート、アフターサービス等を徹底
  - 変動費、固定費などの聖域を作らず戦略的にコスト削減を徹底
  - 業界、地域などターゲット及び戦略を明確化し、マーケティング力、販売体制を強化
  
- ◆ 開発要素の高い案件については、受注検討段階での技術的リスクの洗い出しを徹底するとともに、収益面、財務面を含めたリスクシナリオ・対応策を十分検討のうえ経営判断

## ▶▶ 目標数値 (連結ベース) [単位：億円]

■ 受注高



■ 売上高

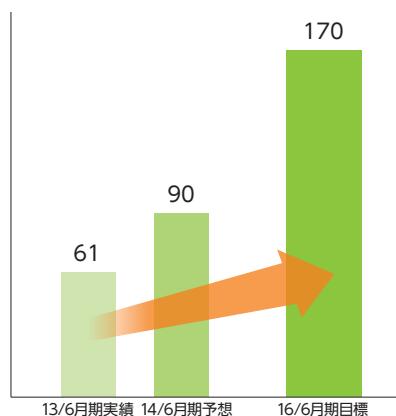


## ▶▶ 推進施策(事業構造改革)の概要

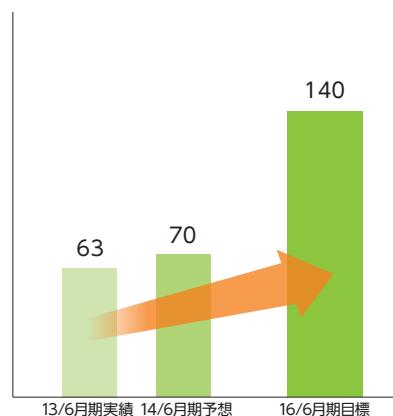
中期経営計画を推進するため、下記施策を実施します。

- ① 開発戦略
- ⑥ 人事制度改革
- ② 営業戦略
- ⑦ スリム化
- ③ コスト競争力強化
- ⑧ 業務改革
- ④ 経費削減
- ⑨ リスクマネジメント
- ⑤ 利益計画
- ⑩ グループ経営管理

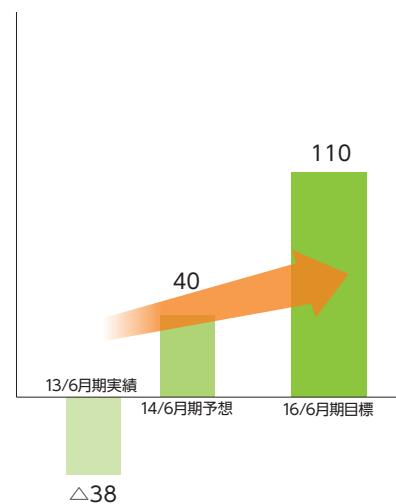
### ■ 営業利益



### ■ 経常利益



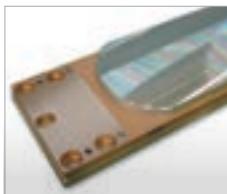
### ■ 当期純利益



# 事業別概況

## 真空応用事業 Vacuum Application Business

### ▶ 材料



液晶ディスプレイ用スパッタリングターゲット材料関連では、主要パネルメーカーの稼働率の低迷が続き、引き続き厳しい状況で推移し、加えて半導体関連も生産調整による減産の影響を受け、受注・売上が低迷し、前期に比べて減少

いたしました。

### ▶ その他

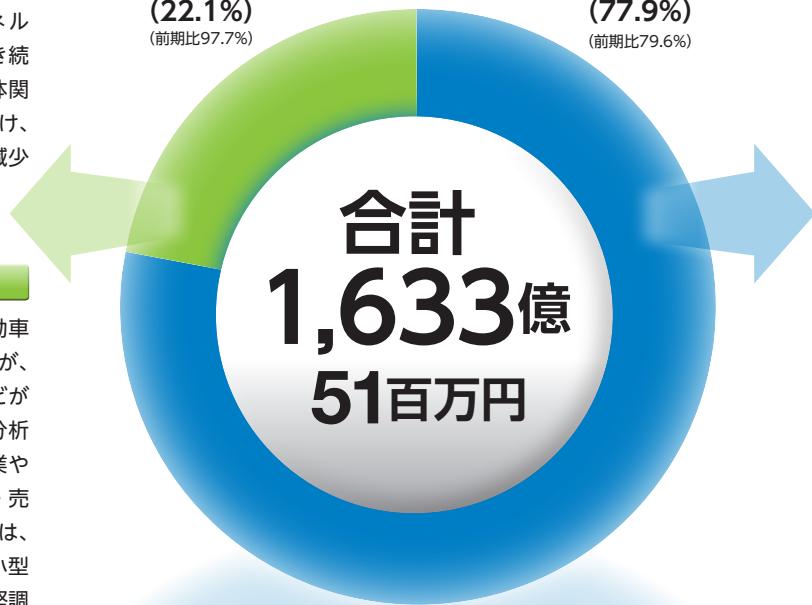


制御システム関連では、日本の自動車業界を中心に売上を計上いたしましたが、中国向け案件の投資延期や見送りなどが影響し、受注が低迷いたしました。分析機器関連では、日本や欧米の民間企業や国などの研究機関向けを中心に受注・売上とも堅調に推移いたしました。また、マスクブランクス事業は、スマートフォンやタブレットPC関連が好調であったため、中小型液晶ディスプレイやタッチパネル関連を中心に受注・売上とも堅調に推移いたしました。

## ■ 事業別売上高

真空応用事業  
360億68百万円  
(22.1%)  
(前期比97.7%)

真空機器事業  
1,272億82百万円  
(77.9%)  
(前期比79.6%)



## ● 真空応用事業

## ● 真空機器事業



材料 139億15百万円 (8.5%)  
その他 221億54百万円 (13.6%)

FPD及び  
PV製造装置 576億71百万円 (35.3%)

半導体及び  
電子部品製造装置 223億60百万円 (13.7%)

コンポーネント 233億72百万円 (14.3%)

一般産業用装置 238億79百万円 (14.6%)

## 真空機器事業 Vacuum Equipment Business

### ▶ FPD及びPV製造装置

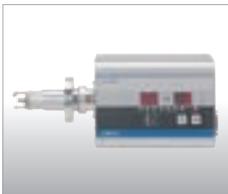


FPD関連では、受注に関しましては、アジア地域を中心にモバイル機器や照明に使われる有機EL製造装置や、中国を中心に大型テレビ用液晶ディスプレイ製造装置が寄与し、前期に比べて増加いたしました。売上に関しましては、アジア地域

を中心に大型液晶テレビ用スパッタリング装置やモバイル機器に使われる中小型液晶ディスプレイ製造用のスパッタリング装置、プラズマCVD装置及び有機EL製造装置を計上いたしました。

太陽電池(PV)関連では、高効率結晶系太陽電池製造装置の受注があり、韓国、台湾向けに化合物系太陽電池製造装置を中心に売上を計上いたしました。補助金政策による太陽電池市場の盛り上がりがあるものの、設備投資は低迷したままで推移いたしました。

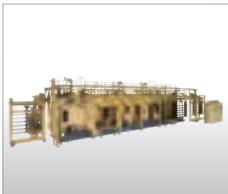
### ▶ コンポーネント



コンポーネント関連では、FPDや半導体業界の設備投資が低迷した影響を受け、ドライポンプ、半導体製造装置用真空ポンプなどの受注が厳しい状況でした。一方、有機EL製造装置などのモバイル機器や光学分野向けのクライオポンプ

及び分析機器や医療機器向けの小型ポンプ関連が堅調に推移し、受注・売上とも前期に比べて増加いたしました。

### ▶ 一般産業用装置



一般産業用装置関連では、自動車部品用の真空熱処理炉や自動ヘリウムリークテスト装置に加え、医薬品用凍結真空乾燥装置や健康食品用真空蒸留装置などの売上が堅調に推移し、前期に比べて増加いたしました。

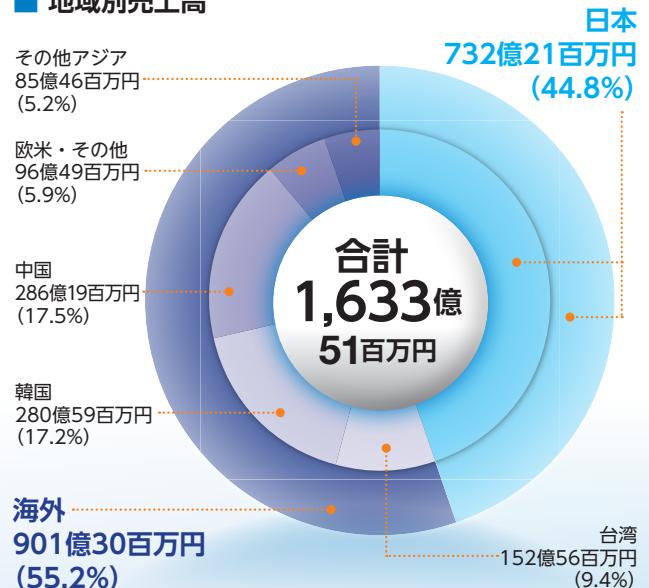
### ▶ 半導体及び電子部品製造装置



半導体及び電子部品関連では、PC需要の低迷の影響を受け、総じて厳しい状況で推移し、受注・売上とも前期に比べて減少いたしました。スマートフォン関連のファウンドリ用製造装置は、後工程だけでなく前工程向けにスパッタリング装

置「ENTRON™-EXシリーズ」を受注いたしました。一般的な受注の回復までには至りませんでした。省エネ対応として照明や液晶ディスプレイ用バックライトなどに使用されるLED需要の盛り上がりへに欠け、LED製造用エッチング装置や成膜装置などの受注・売上は低迷したままで推移いたしました。

### ■ 地域別売上高



# アルバックこの一年

## ▶ 2012年 7月 TECHNOLOGY

### 各種熱電材料の特長に合わせた 「熱電特性評価装置 ZEM-5シリーズ」を販売開始

アルバック理工(株)は、「熱電特性評価装置 ZEM-5シリーズ」を開発し、販売を開始しました。熱電材料は、熱から電気に変換する際に駆動部がないため、メンテナンスフリーでクリーンな技術として注目されていますが、開発が進むにつれ、各種材料でより高いレベルの性能評価が求められてきました。高温・高抵抗・薄膜など各種熱電材料の特長に特化した「ZEM-5シリーズ」の開発により、様々な材料の詳細な要求に対応する熱電材料評価装置を実現しました。



## ▶ 2012年 10月 TECHNOLOGY

### 分子間相互作用定量QCM装置 「AFFINIX Q8」を販売開始

アルバックグループの(株)インシウムは、アルバックと共同で分子間相互作用定量QCM装置「AFFINIXシリーズ」の新製品「AFFINIX Q8」を開発、販売を開始しました。



「AFFINIXシリーズ」は、タンパク質・DNA等の生体高分子に関わる研究や微粒子・薄膜等の材料評価に至る幅広い用途において、分子の結合・解離、重合・分解を水晶振動子の周波数変化で捉えることにより、無標識でリアルタイムに定量することができます。製品の応用分野としてタンパク質間相互作用をはじめとした『生体分子間相互作用測定』\*1の市場や微粒子、薄膜、高分子などを対象とした『材料評価』\*2市場での応用が見込まれます。

7

2012

8

9

10

11

12

## ▶ 2012年 10月 TECHNOLOGY

### 自動車PC樹脂グレージング量産用新プラズマ成膜装置 「ULGLAZEシステム」を発表

熱可塑性エンジニアリングプラスチック及び先端素材ソリューションの世界的リーダーであるSABICイノベティブプラスチック社様とアルバックは、自動車用樹脂グレージング(ポリカーボネート/PC)部品の量産用プラズマ成膜装置「ULGLAZEシステム」を発表しました。



この量産成膜技術がもたらす耐候性と耐摩耗性に優れるプラズマコーティングを施した自動車用樹脂グレージングによって車両の軽量化が実現し、燃料効率を改善させることが可能となります。

## ▶ 2012年 10月 AWARD

### 「ECOR-3」が「神奈川工業技術開発大賞 地球環境技術賞」を受賞

アルバック理工(株)は、これまで利用されていなかった工場廃熱、温泉熱などの低温の廃熱エネルギーである75~100℃未満のお湯と5~30℃の水との温度差を利用した「可搬型小型発電システム ECOR-3」を開発、「神奈川工業技術開発大賞 地球環境技術賞」を受賞しました。また、2月には、神奈川県が世界に発信する先端技術としてふさわしい優れた事業計画に対し重点的に様々な支援を行う事業である「かながわスタンダード」に認定されました。



## ▶ 2013年 2月 AWARD

友達光電社様から2012年度  
「ベスト装置サプライヤー賞」を6年連続して受賞

アルバックは、台湾の大手パネルメーカー友達光電社（以下、AUO社）様より2012年度の「ベスト装置サプライヤー賞」を受賞しました。これは、アルバックの先端技術がAUO社様の開発ニーズにマッチしただけでなく、同社の生産に安定して稼働する装置を提供したことが評価されたことによるものです。今回の受賞で2007年から6年連続の受賞となり、アルバックの貢献度の高さを物語っています。



## ▶ 2013年 2月 AWARD

LG Display社様から  
「Best Supplier Award」を受賞

アルバックは、韓国の大手パネルメーカー LG Display社様から「Best Supplier Award」（ベストサプライヤー賞）を受賞しました。これは、これまで優れた成果を創出してLG Display社様の競争力の確保に協力してきた協力会社7社に選定されたことによるもので、表彰式ではLG Display社様ハンサンボム社長から表彰とともに感謝の言葉をいただきました。



1

2013

2

3

4

5

6

## ▶ 2012年 11月 AWARD

International Symposium On Dry Process 2012  
半導体電子技術研究所が「Best Paper Award」を受賞

International Symposium On Dry Process 2012（略称DPS）において、アルバックは、DPS2011の発表の中から最も優れた論文に贈られる「Best Paper Award」を受賞しました（東北大学 木下教授との共同受賞）。論文の内容は、「次世代メモリとして注目されているSTT-MRAM のエッチングプロセスにおけるダメージ低減について」です。



## ▶ 2013年 6月 TECHNOLOGY

半導体チップパッケージ基板製造用スパッタリング装置  
「SMV-500F」を販売開始

アルバックは、半導体チップパッケージ基板製造用スパッタリング装置「SMV-500F」の販売を開始しました。近年、スマートフォンやPCでは、小型化・高性能化のため半導体チップの高密度実装の要求が高まっており、プリント基板メーカーでは、チップを実装するパッケージ基板の配線の微細化を進めています。「SMV-500F」は、①低温成膜・高い生産性②薄基板に対応した基板保持機構③高い密着性を特長とした装置です。



本装置はこれまでに国内外多数のお客様のサンプリングを行っており、非常に良い評価をいただいています。2014年中に開始される微細配線パッケージ基板の量産時に、本装置が業界標準機となることをめざしています。

□ 連結貸借対照表 (要旨)

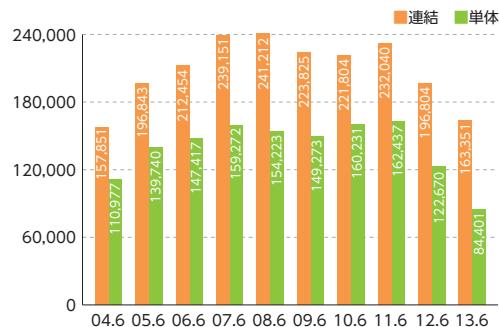
(単位:百万円)

科目	当連結会計年度 2013年6月30日現在	前連結会計年度 2012年6月30日現在
<b>資産の部</b>		
流動資産	153,569	157,236
現金及び預金	44,603	28,397
受取手形及び売掛金	59,525	64,806
たな卸資産	43,927	57,229
繰延税金資産	1,471	1,355
その他	4,606	6,084
貸倒引当金	△564	△635
固定資産	89,720	92,416
有形固定資産	71,808	73,963
建物及び構築物	41,093	40,162
機械装置及び運搬具	16,369	15,264
その他	14,346	18,537
無形固定資産	5,379	5,719
投資その他の資産	12,534	12,734
投資有価証券	3,882	4,055
繰延税金資産	2,204	2,159
その他	6,448	6,521
資産合計	243,289	249,651

(単位:百万円)

科目	当連結会計年度 2013年6月30日現在	前連結会計年度 2012年6月30日現在
<b>負債の部</b>		
流動負債	144,061	164,518
支払手形及び買掛金	28,651	30,690
短期借入金	82,750	82,682
その他	32,660	51,147
固定負債	39,792	43,946
社債	20	40
長期借入金	23,358	27,492
繰延税金負債	1,431	689
その他	14,983	15,725
負債合計	183,853	208,464
<b>純資産の部</b>		
株主資本	54,998	43,807
その他の包括利益累計額	320	△6,749
少数株主持分	4,119	4,128
純資産合計	59,436	41,187
負債純資産合計	243,289	249,651

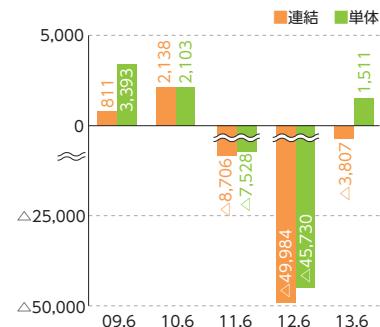
■ 売上高 (単位:百万円)



■ 経常利益 (単位:百万円)



■ 当期純利益 (単位:百万円)



□ 連結損益計算書(要旨)

(単位:百万円)

科目	当連結会計年度	前連結会計年度
	2012年7月1日から 2013年6月30日まで	2011年7月1日から 2012年6月30日まで
売上高	163,351	196,804
売上原価	126,389	168,453
売上総利益	36,962	28,351
販売費及び一般管理費	30,847	34,735
営業利益又は営業損失(△)	6,115	△6,384
営業外収益	3,120	2,807
営業外費用	2,971	2,920
経常利益又は経常損失(△)	6,264	△6,497
特別利益	283	195
特別損失	7,112	27,403
税金等調整前当期純損失(△)	△565	△33,704
法人税、住民税及び事業税	2,347	2,405
法人税等調整額	202	13,163
少数株主損益調整前当期純損失(△)	△3,114	△49,273
少数株主利益	693	712
当期純損失(△)	△3,807	△49,984

□ 連結キャッシュ・フロー計算書(要旨)

(単位:百万円)

科目	当連結会計年度	前連結会計年度
	2012年7月1日から 2013年6月30日まで	2011年7月1日から 2012年6月30日まで
営業活動による キャッシュ・フロー	22,357	△8,492
投資活動による キャッシュ・フロー	△4,506	△11,328
財務活動による キャッシュ・フロー	△3,619	12,616
現金及び現金同等物に 係る換算差額	1,616	△339
現金及び現金同等物の 増減額(△は減少)	15,849	△7,542
現金及び現金同等物の 期首残高	28,180	35,722
連結子会社の決算期変更に伴う 現金及び現金同等物の増加額	175	—
現金及び現金同等物の 期末残高	44,204	28,180

□ 連結株主資本等変動計算書

当連結会計年度(2012年7月1日から2013年6月30日まで)

(単位:百万円)

	株主資本					その他の包括利益累計額				少数株主 持分	純資産 合計
	資本金	資本剰余金	利益剰余金	自己株式	株主資本 合計	その他有価証券 評価差額金	為替換算 調整勘定	その他の包括 利益累計額合計			
2012年7月1日 残高	20,873	22,100	845	△11	43,807	△48	△6,701	△6,749	4,128	41,187	
連結会計年度中の変動額											
新株の発行	7,500	7,500			15,000					15,000	
資本金から剰余金への振替	△7,500	7,500			—					—	
持分法の適用範囲の変動			△37		△37					△37	
連結子会社の決算期変更に伴う増減			33		33					33	
当期純損失(△)			△3,807		△3,807					△3,807	
自己株式の取得				1	1					1	
株主資本以外の項目の連結会計年度中の変動額(純額)						381	6,688	7,069	△9	7,059	
連結会計年度中の変動額合計	—	15,000	△3,811	1	11,190	381	6,688	7,069	△9	18,249	
2013年6月30日 残高	20,873	37,100	△2,966	△10	54,998	333	△13	320	4,119	59,436	

□ 単体貸借対照表 (要旨)

(単位:百万円)

科目	当事業年度 2013年6月30日現在	前事業年度 2012年6月30日現在
<b>資産の部</b>		
流動資産	94,507	105,799
固定資産	79,093	83,092
有形固定資産	42,945	47,459
無形固定資産	4,628	4,950
投資その他の資産	31,520	30,683
資産合計	173,600	188,892
<b>負債の部</b>		
流動負債	106,104	134,158
固定負債	27,077	31,186
長期借入金	20,069	22,584
退職給付引当金	5,253	5,673
その他	1,755	2,929
負債合計	133,180	165,344
<b>純資産の部</b>		
株主資本	40,112	23,601
評価・換算差額等	308	△53
純資産合計	40,420	23,548
負債純資産合計	173,600	188,892

□ 単体損益計算書 (要旨)

(単位:百万円)

科目	当事業年度 2012年7月1日から 2013年6月30日まで	前事業年度 2011年7月1日から 2012年6月30日まで
売上高	84,401	122,670
売上原価	68,516	115,049
売上総利益	15,885	7,621
販売費及び一般管理費	15,278	19,861
営業利益又は営業損失(△)	607	△12,240
営業外収益	10,586	5,134
営業外費用	2,473	2,412
経常利益又は経常損失(△)	8,720	△9,518
特別利益	213	120
特別損失	6,624	23,091
税引前当期純利益 又は税引前当期純損失(△)	2,309	△32,489
法人税、住民税及び事業税	831	426
法人税等調整額	△33	12,815
当期純利益又は当期純損失(△)	1,511	△45,730

□ 単体株主資本等変動計算書 当事業年度 (2012年7月1日から2013年6月30日まで)

(単位:百万円)

	株主資本								評価・換算差額等		純資産 合計			
	資本金	資本剰余金			利益 準備金	利益剰余金			自己株式	株主資本 合計		その他 有価証券評価 差額金	評価・換算 差額等合計	
		資本 準備金	その他 資本剰余金	資本剰余金 合計		固定資産圧縮積立金	別途積立金	繰越利益剰余金						利益剰余金 合計
2012年7月1日 残高	20,873	22,100	—	22,100	529	971	30,206	△51,070	△19,364	△9	23,601	△53	△53	23,548
事業年度中の変動額														
新株の発行	7,500	7,500		7,500							15,000			15,000
資本金から剰余金へ振替	△7,500		7,500	7,500							—			—
準備金から剰余金へ振替		△29,600	29,600	—							—			—
固定資産圧縮積立金の積立						108		△108	—		—			—
固定資産圧縮積立金の取崩						△100		100	—		—			—
当期純利益								1,511	1,511		1,511			1,511
自己株式の取得										△0	△0			△0
株主資本以外の項目の 事業年度中の変動額(純額)												361	361	361
事業年度中の変動額合計	—	△22,100	37,100	15,000	—	8	—	1,503	1,511	△0	16,511	361	361	16,872
2013年6月30日 残高	20,873	—	37,100	37,100	529	980	30,206	△49,567	△17,853	△9	40,112	308	308	40,420

## □ 会社概要 2013年6月30日現在

商号	株式会社アルバック ULVAC, Inc.
商標	ULVAC
本社	神奈川県茅ヶ崎市萩園2500番地
設立	1952年8月23日
資本金	20,873,042,500円
従業員数	1,148名 (連結6,579名)

## □ 役員 2013年9月26日現在

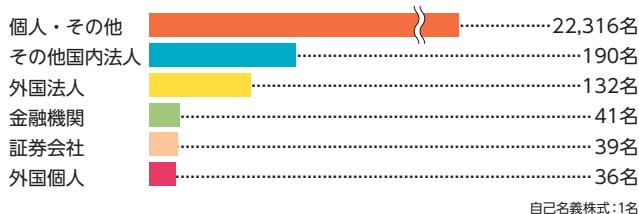
代表取締役執行役員社長	小日向久治
取締役専務執行役員	坊 昭範
取締役執行役員	本吉 光
取締役執行役員	末代 政輔
取締役執行役員	小田木秀幸
取締役(社外)	皆川 卓士
取締役(社外)	池田 修三
常務執行役員	中村 静雄
常務執行役員	岩下 節生

執行役員	平野 裕之
執行役員	中村 孝男
執行役員	齋藤 一也
執行役員	白 忠烈
執行役員	梅田 彰
監査役	大井 宣夫
監査役	待鳥 啓信
監査役(社外)	浅田 千秋
監査役(社外)	大塚 一美

## □ 株式の状況 2013年6月30日現在

発行可能株式総数	普通株式	100,000,000株
	A種種類株式	1,500株
	B種種類株式	37,500株
発行済株式の総数	普通株式	49,355,938株
	A種種類株式	1,500株
株主数	普通株式	22,755名
	A種種類株式	1名

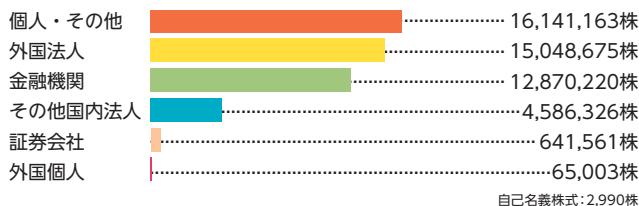
## □ 所有者別株主数 (普通株式) 合計: 22,755名



## □ 大株主 (普通株式)

株主名	持株数(千株)	持株比率(%)
TAIYO FUND,L.P.	8,538	17.30
日本生命保険相互会社	3,242	6.57
株式会社みずほ銀行	1,916	3.88
株式会社三井住友銀行	1,864	3.78
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口)	1,016	2.06
アルバック持株会	1,000	2.03
株式会社三菱東京UFJ銀行	910	1.84
稲畑産業株式会社	795	1.61
バンクオブニューヨーク・ロン・エヌイー・エヌアイ・フォー・ビー・エヌワイ・ジー・シー・エム	727	1.47
クライアント・アカウント・イー・エル・エス・シー・ビー	702	1.42
三井住友信託銀行株式会社	702	1.42

## □ 所有者別株式数 (普通株式) 合計: 49,355,938株



(注) 持株比率は自己株式(2,990株)を控除して計算しております。

## 株主メモ

事業年度	7月1日から翌年6月30日まで
定時株主総会	9月下旬
基準日	定時株主総会・期末配当 6月30日
株主名簿管理人及び 特別口座の口座管理機関	東京都千代田区丸の内一丁目4番1号 三井住友信託銀行株式会社
郵便物送付先	〒168-0063 東京都杉並区和泉二丁目8番4号 三井住友信託銀行株式会社 証券代行部
( 電話照会先 )	TEL.0120-782-031 (フリーダイヤル) 受付時間 9:00~17:00 (土・日・祝祭日を除く) 取次事務は三井住友信託銀行株式会社の本店及び 全国各支店で行っております。

### 住所変更など諸手続のお申し出先について

株主様の口座のある証券会社等にお申し出ください。  
なお、証券会社等に口座がないため特別口座が開設  
されました株主様は、特別口座の口座管理機関である  
三井住友信託銀行株式会社にお申し出ください。

三井住友信託銀行株式会社への  
手続用紙(住所変更・買取請求・配当金振込指定など)のご請求  
ホームページアドレス <http://www.smtb.jp/personal/agency/>

### 未払配当金の支払について

株主名簿管理人である三井住友信託銀行株式会社にお  
申し出ください。

## HPのご案内

当社ホームページでは、最新のニュースや技術情報など、当社をご理解いただくためのさまざまな情報を  
提供しております。



<http://www.ulvac.co.jp/>

アルバック

検索



**ULVAC** 株式会社アルバック

本社・工場：〒253-8543 神奈川県茅ヶ崎市萩園2500 TEL.0467-89-2033

